

## C12b 愛知教育大学天文台一般公開2 一般公開の実際

後藤純也(愛知教育大)・水谷有宏(国立天文台)・安藤享平(郡山市ふれあい科学館)・吉見恵里子(愛知教育大)・水野洋介(京大理)・沢武文(愛知教育大)

愛知教育大学では、一般市民を対象にした「第1回愛知教育大学天文台一般公開」を2000年12月に実施し、以後、ほぼ2ヶ月に1度の割合で一般公開を行ってきた。今年6月までに実施した回数は9回である。参加者は、最初のころは約90名と多かったが、現在は50名前後で、ほぼ安定した参加人数になっている。

愛知教育大学で行っている一般公開の特徴としては、「天文ミニ講座」と「天体観望会」をセットで行っていることであろう。ミニ講座は1時間で、その時期の天文現象のトピックス的な話をする場合もあるが、大部分は一般の天文学に対する話題を取り上げている。講師は、天文学の研究者自らが行うということを心がけており、これまでは大学教官である沢が中心になって行っている。もちろん大学院生も研究者であり、3月に実施した第2回と第8回では大学院生にも講座の一部を担当してもらっているが、定期的に講座を担当してもらう段階までには至っていない。

毎回、参加者に対してアンケート調査を行っており、参加者の動向をある程度うかがうことができる。特徴としては、必ずしも大学近辺(刈谷市)の参加者が多いわけではないこと、インターネットで情報を得ている人も少なからずいること、9回実施にもかかわらず、始めて参加したという人が少なからずいることなど、当初の我々の予想とは必ずしも一致していないことがわかってきた。このことを逆にうまく利用すれば、もう少し参加者を増やすことができるものと思われる。今回は、このようなことを含め、これまで9回実施した愛知教育大学天文台一般公開の様子を紹介するとともに、参加者に対するアンケート調査をまとめた結果について報告する。